SSD: Single Shot MultiBox Detector

Abstract

- 異なる解像度の出力 map への射影により、1つのネットワークで異なる scale, aspect 比の prediction
- simple だから早い, 高い accuracy

Introduction

- 多くのアプローチは bounding box を予測し、各 box を classifer の入力とする
 - 。 Faster R-CNN の派生系
 - 。 計算量多すぎてリアルタイム厳しい
 - 。 高速化は性能とのトレードオフだった
- 提案手法では pixel を resample しない最初の deep network based なシステムにより、精度を維持しつつ大幅な速度の向上
- We summarize our contribution as follows:
 - 。 YOLO よりも早く,遅く高精度な Faster R-CNN 並みに高精度な SSD の提案
 - 。 feature maps に適用された小さな conv filter を用いた fixed set of default bounding box によって score と box offsets を予測する
 - 。 複数の scale の feature maps から予測することにより high accuracy を達成,prediction と aspect ratio を明確に分離した?
 - 。 これらの設計はシンプルな end-to-end training を可能にし、速度と精度のトレードオフを大きく改善

2 The Single Shot Detector (SSD)

- 2.1 SSD framework for detection
- 2.2 training について
- 2.3 dateset-specific model details and experimental results

2.1 Model

- SSD は fixed-size collection of bounding boxes とクラスのスコアを出力する convs と、それに接続し最終的な detection を行う non-maximum suppression からなる
- base network は VGG-16
 - 。 それに以下に示すような detection 用の構造を追加

Multi-scale feature maps for detection

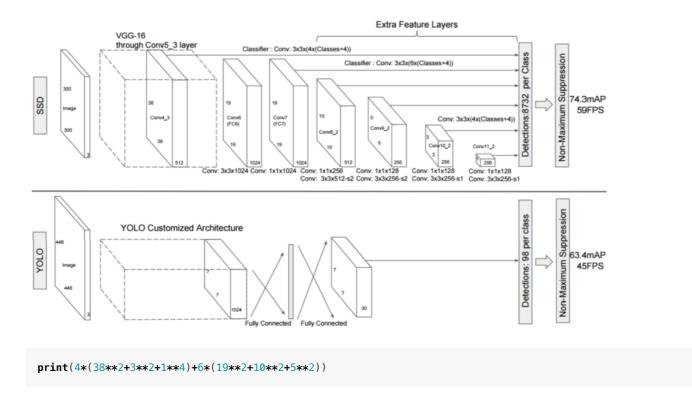
- truncated base network に conv feature layers を追加
 - 。 だんだんサイズが小さくなるので multi scale な prediction が可能

Convolutional predictors for detection

- 各 added feature layer は detection prediction を conv filters を用いて出力する
- $m \times n$ feature map 上の各 cell について, bounding box の offset と各クラスのスコアを出力

Default boxes and aspect ratios

- $m \times n$ feature map 上の各 cell について、k 個の default box が存在し、それぞれが x,y,w,h と各クラスのスコアを出力する
 - 。 したがって、 $m \times n$ feature map のoutput は (c+4)kmn 個となる
 - 。 Faster R-CNN の anchor box に似ているが、複数の feature maps に適用している点が異なる



8732

2.2 Training

- SSD と typical な region proposal を使う detector との重要な違いは、ground truth information を出力のうち特定のものに assign すること
 - 。 YOLO や Faster R-CNN の RPN でもやってる
 - 。 end-to-end で学習できる
- training は default boxes とその scales の選択,及び hard negative mining と data augmentation も含む

Matching strategy

- ground truth と default box を対応づける必要がある
 - 。 まず,各 ground truth について jaccard overlap (MultiBox) が一番よく一致している default box を選択
 - 。 次に MultiBox と異なり、各 default box について jaccard overlap が threshold (0.5) より大きい ground truth を全て選択
 - 。 最大の overlap を持つ1つのみの default box を選ぶよりも複数の box を選ぶ方が learning problem が簡単になる

Training objective

- SSD の目的関数は MultiBox から派生しているが、複数カテゴリの object を扱えるように拡張してある
- x_{ij}^p : indicator for matching i-th default box to the j-th ground truth box of category p
 - 。 上述の matching strategy の通り、 $\sum_i x_{ij}^p \geq 1$
- objective loss function:

$$L(x,c,l,g) = \frac{1}{N} \left(L_{conf}(x,c) + \alpha L_{loc}(x,l,g) \right)$$

- N: number of matched default boxes (L=0 when N=0)
- o x: input
- 。 c: multiple classes confidences (c_i^p は i 番目の default box が p 番目のクラスに属するという confidence)
- o I: predicted box
- o g: ground truth
- localization loss $(L_{loc}(x,l,g))$: predicted box \succeq ground truth $\mathcal O$ SmoothL1 loss
- box の中心 (cx, cy) と w, h を default bounding box (b) に回帰
 - 。 Pos: match した default box の集合 (N 個)

$$L(x,c,l,g) = \frac{1}{N} (L_{conf}(x,c) + \alpha L_{loc}(x,l,g))$$
 (1)

$$L_{loc}(x, l, g) = \sum_{i \in Pos}^{N} \sum_{m \in \{cx, cy, w, h\}} x_{ij}^{k} \operatorname{smooth}_{L1}(l_{i}^{m} - \hat{g}_{j}^{m})$$

$$\hat{g}_{j}^{cx} = (g_{j}^{cx} - d_{i}^{cx})/d_{i}^{w} \qquad \hat{g}_{j}^{cy} = (g_{j}^{cy} - d_{i}^{cy})/d_{i}^{h}$$

$$\hat{g}_{j}^{w} = \log\left(\frac{g_{j}^{w}}{d_{i}^{w}}\right) \qquad \hat{g}_{j}^{h} = \log\left(\frac{g_{j}^{h}}{d_{i}^{h}}\right)$$
(2)

$$L_{conf}(x,c) = -\sum_{i \in Pos}^{N} x_{ij}^{p} log(\hat{c}_{i}^{p}) - \sum_{i \in Neg} log(\hat{c}_{i}^{0}) \quad \text{where} \quad \hat{c}_{i}^{p} = \frac{\exp(c_{i}^{p})}{\sum_{p} \exp(c_{i}^{p})} \quad (3)$$

Choosing scales and aspect ratios for default boxes

- 多様な scale のオブジェクトに対応するために、複数サイズの画像を入力し、出力をまとめるみたいなことがされてきた。 SSD では feature maps の導入により parameters (convs だよね) を共有しながら同様の効果を得ることができている
- 低解像度, 高解像度両方の feature map を利用した
- 特定の feature map が学習する object の大きさを規定した
- scale について
 - $s_k: x, y, w, h$ を画像 (feature map) 全体の辺の長さを1としたときの比として表現
 - \circ $s_{\min} = 0.2$: lowest layer has a scale of 0.2
 - 一番解像度高いやつって理解で合ってる?たかだか5分割なのは嘘くさくない?
 - $s_{\rm max} = 0.9$: highest layer has a scale of 0.9
 - 一番解像度低いやつって理解で合ってる?てか画像全体だよね
 - ∘ m 枚の feature map

$$s_k = s_{\min} + \frac{s_{\max} - s_{\min}}{m - 1} (k - 1), \quad k \in [1, m]$$

- aspect 比について
 - $a_r \in \{1, 2, 3, \frac{1}{2}, \frac{1}{3}\}$
- w,h の決め方

$$w_k^a = s_k \sqrt{a_r}, \ h_k^a = s_k / \sqrt{a_r}$$

- 。 ただし, $a_r=1$ のときだけは $s_k'=\sqrt{s_k s_{k+1}}$ を追加
- x, y の決め方
 - 。 feature map の各セルの中心
 - 。 論文中の式は $|f_k| \times |f_k|$ のセルについて書かれてる

Hard negative mining

- 特に default box が多い時は大半が negative
- pos, neg 間の imbalance をもたらす
- 全ての neg を使うのではなく,各 default box について confidence loss (L_{conf}) が高いものを採用し,neg:pos = 3:1 になる ようにした

Data augmentation

- patch
 - 。 image 全体を使う
 - o minimum jaccard overlap with the object が 0.1, 0.3, 0.5, 0.7, or 0.9 になるように patch とる
 - o randomly sample a patch
- patched image は元画像の 0.1 ~ 1 倍
- アスペクト比は2倍以下
- ground truth box の中心が sampled patch 内にある時は overlapped part を keep?
- 上述のことをやってから画像サイズを修正, さらに確率 0.5 でhorizontally flipped

Experimental Results

Base network

- ILSVRC CLS_LOC VGG16 を pre-train
 - 。[17] のように, fc6, fc7 を conv に
 - 。 subsample parameters from fc6 and fc7 (パラメータ引き継いだのかな?)
 - change pool 5 from 2 x 2 s2 to 3 x 3 s1
 - o use the a trous algorithm [18] to fill the 'hole'
 - remove all the dropout layers and fc8

3.1 PASCAL VOC2007

- VOC2007 (4952 images) について Fast R-CNN, Faster R-CNN と比較
- 新しく追加した layer のパラメータは 'xavier' method [20] により初期化
- conv4_3, conv10_2, conv11_2 については $a_r = 3$, 1/3 を除外し 4 default boxes
- conv4_3 の feature scale は違うので、 L2 normalization した
- SSD512 では convs12_2 を追加し、 $s_{\min} = 0.15$ とし conv4_3 は s = 0.07
- COCO で train した SSD512 を 07+12 で fine-tune するのが最強, 81.6 %
- Fig. 3 に detection analysis tool [21] による結果
 - 。 横軸の total detections の意味がわからん, [21] 読まないとかな...
 - 。 recall が高い
 - weak criteria (0.1 jaccard overlap) の方が高い
 - 。 R-CNN に比べ localization error が低い
 - end-to-end なシステムだからかな
 - 。 似たようなカテゴリ、特に動物の識別に弱い
 - partly because we share locations for multiple categories???
 - 。 box のサイズに敏感, 特に小さいのに弱い
 - higher layer だと情報消えてるし当たり前だよね、input size あげればましになるけど改善の余地あり

3.2 Model analysis

- YOLO に似てる data augmentation した、これがむっちゃ効いた
- atrous 使うと結果は同じだけど 20% くらい学習早い
 - 。 parameter の初期値の話かな
- multiple output layers at different resolutions is better

3.3 PASCAL VOC2012

• COCO で train した SSD512 を 07+12 で fine-tune するのが最強, 80.0 %

3.4 COCO

- COCO は小さい object が多いので default box の scale を小さくした (0.2 -> 0.15)
 - \circ SSD300 では conv4_3 は s=0.07
 - conv4_3 はもともと幾つなんや、 s_{\min} は feature maps の話っぽいよね
 - 。 SSD512 では convs12_2 を追加し、 $s_{\min}=0.1$ とし conv4_3 は s=0.04

3.5 Preliminary ILSVRC results

• SSD300 で 43.4 mAP...

3.6 Data Augmentation for Smaller Object Accuracy

- 小さい object の検出は SSD にとって難しい,data augmentation でなんとかしたい
- 2.2 で述べた random crop は 'zoom in' に相当する,小さい object について train するためには 'zoom out' もしたい
- 平均画素値で満たされた元画像の 16 倍の大きさの canvas 上に random に画像を置いてから, random crop operation した??
 - 。 無駄にデカすぎるきがするけど、object が 0.1 とか (jaccard overlap) あればいいからこれくらい必要なのかな?
 - 。 ちょっとこれ解釈怪しいかも,実装見ないとかな...
- 2%-3% 上がった、これもやろう